

授業改善 事例②

1 題材について

1 題材名 「版画で表す私の唐津くんち」（第1学年）

2 題材の目標

- ・学習指導要領の目標や内容を踏まえて設定します。
- ・生徒の実態、これまでの学習状況等を考慮して設定します。

(1) 「知識及び技能」に関する題材の目標

- ・形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、曳山の迫力や唐津くんちの情景などを全体のイメージで捉えることを理解する。〔共通事項〕
- ・彫刻刀の使い方や単色で刷って表現する方法、裏手彩色の生かし方を身に付け、意図に応じて工夫して表す。〔A表現〕(2)

(2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する題材の目標

- ・曳山を見つめ感じ取った唐津くんちの情景や、曳山の形や色彩の特徴や美しさなどを基に主題を生み出し、画面全体と唐津くんちの情景や曳山との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構成を練る。〔A表現〕(1)ア(ア)
- ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。〔B鑑賞〕(1)ア(ア)

(3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標

- ・美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく唐津くんちの情景や曳山の造形的な特徴を基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

3 題材の評価規準

- ・国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校美術）』に示されている「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を具体化したり省略したりして、設定します。

知知識 技技能 発発想や構想 鑑鑑賞 態表態度(表現) 態鑑態度(鑑賞)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、曳山の迫力や唐津くんちの情景などを全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>技 彫刻刀の使い方や単色で刷って表現する方法、裏手彩色の生かし方を身に付け、意図に応じて工夫して表している。</p>	<p>発 曳山を見つめ感じ取った唐津くんちの情景や曳山の形や色彩の特徴や美しさなどを基に主題を生み出し、画面全体と唐津くんちの情景や曳山との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</p> <p>鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。</p>	<p>態表 美術の創作活動の喜びを味わい楽しく唐津くんちの情景や曳山の造形的な特徴を基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 美術の創作活動の喜びを味わい楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

授業づくりに当たって

題材の前に実施したアンケートの、「美術の授業では夢中になって制作に取り組むことがある」という質問では、89.4%の生徒が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答しました。しかし、「美術の学習の中で、どの分野が苦手ですか」という質問では、29.4%の生徒が絵画による表現、24.7%の生徒が彫刻による表現が苦手と回答しています。理由として、「彫るときに彫り跡が汚くなる。うまくいかない」、「絵の具を使うと水でにじんだり絵の具の色が変なところに動いたりする」など、発想や構想することよりも技能を働かせて表現することが苦手だという回答が多く、自分の意図に応じて表現することが難しいという思いをもっている生徒が多くいます。

第1学年では、色の性質、構図、ポスターカラーを利用した平面構成による表現などの学習を行ってきましたが、発想や構想したことに対して既習の知識や技能を活用し創意工夫して表現した経験は多くありません。これまでも第1学年では一版多色刷りの版画表現を題材として取り扱ってきましたが、本題材では、生徒が材料や用具の生かし方を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫して表すことができるような学習活動を工夫したいと考えました。発想や構想をしたことを基に、生徒が材料や用具の生かし方を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫して表す、創造的に表す技能を育成することを重点的なねらいの一つとして、授業改善を行いました。

4 題材の指導と評価の計画（全13時間）

・題材全体の指導と評価の計画を考えます。

- …生徒の学習の実現状況を見取り、生徒の学習の改善や教師の指導の改善につなげるために用いる指導に生かす評価
- …題材の観点別学習状況の評価の総括に用いる記録に残す評価
- **【 】** …評価の方法や生徒の学習の実現状況を見取るための資料
- **知、技、知・技、思、鑑、態表、態鑑** …評価の観点

時	●学習のねらい ・学習活動	主な評価の観点及び評価方法、留意点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 2	<p>1. 発想や構想（2時間）</p> <p>●作者の心情や意図に応じた多様な表現について考えるとともに、唐津くんちの情景や曳山の形の美しさを基に主題を生み出す。 ・複数の版画作品を鑑賞し、作者の心情や意図に応じた多様な表現について考えるとともに、唐津くんちの情景や曳山の造形的な特徴などから感じたことを言葉で書き表し、主題を生み出す。</p> <p>●創造的な構成を工夫して、主題を基に構想を練る。 ・主題を基に形（色面）、線の表現などの効果と主題との関係について考え、創造的な構成を工夫し、下絵を完成する。 ・完成した下絵を版に転写する。</p>	<p>知 形や色彩などの効果や全体のイメージを捉えることを理解しているかを見取る。【ワークシート、発言の内容】</p>	<p>発 曳山を見つめ感じ取った唐津くんちの情景や曳山の形や色彩の特徴や美しさなどを基に主題を生み出しているかを見取る。【ワークシート】</p> <p>発 主題を基に構図や視点の取り方を検討したり、マジックペンや筆ペンが生む線を生かし、形（色面）や線の表現などの関係について考えたりして創造的な構成を練っているかを見取る。【下絵、転写した版木、ワークシート】</p> <p>⋮</p> <p>発 主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っているかを暫定的に評価し、第三次で再度評価を行う。【下絵、ワークシート】</p>	<p>態表 形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとしたり、主題と表現の工夫について考えようとしたりする意欲や態度、主題を生み出そうとしているかを見取る。【ワークシート、活動の様子】</p> <p>態表 構想をすることに難しさを感じている生徒を見取る。【下絵、転写した版木、ワークシート、活動の様子】</p> <p>⋮</p> <p>態表 楽しく発想や構想の活動に取り組み、形や色彩の効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし、生み出した主題をよりよく表すために心豊かに構想しようとする態度を評価する。【活動の様子】</p>

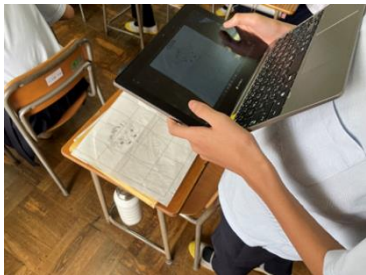
<p>3 4 5 6</p>	<p>2. 彫り (4時間)</p> <p>●彫刻刀の生かし方を身に付け、意図に応じて工夫して表す。</p> <p>・彫刻刀の基本的な使い方を身に付ける。</p> <p>・下絵の線などの表現によって彫刻刀を使い分けながら、転写した下絵を彫り、版を制作する。</p>	<p>技 彫刻刀の生かし方などを身に付け、意図に応じて彫刻刀を適切に選び、正しく使っているかを見取る。【版木の状態、活動の様子】</p> <p>技 発想や構想をしたことを基に、意図に応じて身に付けた彫刻刀の生かし方を活用し工夫して表しているかを見取る。【版木の状態、ワークシート、活動の様子】</p> <p>⋮</p> <p>知・技 版木の状態から、彫刻刀の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表しているかを見取るとともに、形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しているかを併せて見取り、知と技を知・技として一体的に評価する。【版木の状態、ワークシート】</p>		<p>態表 彫刻刀の基本的な使い方を身に付け、意図に応じて彫刻刀を選び、彫り方を意欲的に試しているかなどの態度を見取る。【版木の状態、活動の様子】</p> <p>態表 発想や構想をしたことを基に、意図に応じて身に付けた彫刻刀の生かし方を活用し工夫して表しているかなどの態度を見取る。【版木の状態、ワークシート、活動の様子】</p> <p>⋮</p> <p>態表 楽しく制作に取り組み、形や色彩の効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし、意図に応じて工夫して表そうとしているかなどの態度を評価する。【版木の状態、活動の様子】</p>
<p>7 8 9 10 11 12</p>	<p>3. 刷り・彩色 (6時間)</p> <p>●単色で刷って表現する技法や裏手彩色の生かし方を身に付け、意図に応じて工夫して表す。</p> <p>・アクリル系ポスターカラーの黒色で単色刷りをする。</p> <p>・意図に応じた色彩の効果を考えながら配色計画を立てる。</p> <p>・技法として裏手彩色を学び、その生かし方を意図に応じて考え、裏手彩色で彩色を行う。</p> <p>・裏手彩色の途中に鑑賞を行い、友人の作品を見たり自分の意図を説明したりすることにより、表したい表現をより明確にしていくなどして、作品を完成させる。</p>	<p>技 単色で刷って表現する技法の効果を生かし、黒色の調整や筆やばれんの動かし方など、意図に応じて工夫して表しているかを見取る。【刷り紙、活動の様子】</p> <p>知・技 発想や構想をしたことを基に、形や色彩の効果や全体のイメージで捉えることを理解し、裏手彩色の生かし方を身に付け、意図に応じて表現を工夫して表しているかを見取る。【作品、単色刷りのデータ、活動の様子】</p> <p>⋮</p> <p>知・技 作品から単色で刷って表現する技法や裏手彩色の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表しているかを見取るとともに、形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しているかを併せて見取り、知と技を知・技として一体的に評価する。【作品、単色刷りのデータ、活動の様子】</p>	<p>発 意図に応じた配色ができていているかを見取る。【活動の様子、1人1台端末で撮影した単色刷りのデータ (以下、単色刷りのデータ)】</p> <p>発 主題の変化や配色計画などの構想を含めて、発想や構想を再度見取り評価する。【作品、単色刷りのデータ】</p>	<p>態表 単色で刷って表現する技法の効果を生かし、黒色の調整や筆やばれんの動かし方など、意図に応じて工夫して表しているかなどの態度を見取る。【刷り紙、活動の様子】</p> <p>態表 発想や構想をしたことを基に、形や色彩の効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし、裏手彩色の生かし方を身に付け、意図に応じて表現を工夫して表しているかなどの態度を見取る。【作品、単色刷りのデータ、活動の様子】</p> <p>⋮</p> <p>態表 楽しく制作に取り組み、形や色彩の効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし、意図に応じて工夫して表そうとしているかなどの態度を評価する。【作品、活動の様子】</p>

<p>13</p>	<p>4. 鑑賞（1時間）</p> <p>●生徒作品を相互に鑑賞し、作品や自分の活動した体験から造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 完成した作品を相互に鑑賞し、作品から感じたことや考えたことを説明し合う。作品の主題と表現の意図と工夫などについて自分の活動した体験から、新たな見方や感じ方を広げる。 第1時とは異なる木版画と裏手彩色の技法を用いて制作した作家の作品を鑑賞し、作品の主題と表現の意図と工夫などについて自分の活動した体験から、新たな見方や感じ方を広げる。 	<p>知 形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しているかを見取る。【ワークシート、発言の内容】</p>	<p>鑑 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えることができるかを見取る。【ワークシート、発言の内容、活動の様子】</p>	<p>態鑑 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えることができるかと取り組む態度を見取る。【ワークシート、発言の内容、活動の様子】</p> <p>⋮</p> <p>態鑑 楽しく作品を鑑賞し、形や色彩の効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし、造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えようとしていたりしているかを評価する。【発言の内容、活動の様子、ワークシート】</p>
<p>授業外 〈題材が終了後〉</p>	<p>⋮</p> <p>知・技 完成作品やワークシートなどから知・技の評価を再確認し、必要に応じて修正する。【完成作品・木版・アイデアスケッチ】</p>	<p>⋮</p> <p>鑑 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えて、見方や感じ方を広げられているかをワークシートで見取り評価する。【ワークシート】</p> <p>⋮</p> <p>発 発想や構想について、主題や構想の工夫などを記述したワークシート等を完成作品と併せて再度見取り、必要に応じて修正する。【完成作品、下絵、ワークシート】</p>	<p>⋮</p>	<p>⋮</p>

2 本題材における指導の工夫のポイント

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点に基づいて、本題材における具体的な例を示します。
- ・ □ : 『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた表現活動サポート Q & A（coming soon）、□ : 『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善サポート Q & A を併せて御参照ください（以下の表中では、特に関連のある Q の内容のみ表記します）。

1 生徒が自ら発想や構想をするための指導の工夫

時	○学習のねらい □ 指導の工夫 □ 授業改善の具体的な内容
1 2	<p>○主題を生み出す。</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">1. 生徒が自分事として表現の活動に取り組むことができる題材の設定</p> </div> <p>本題材では、唐津くんちの情景や曳山の形の美しさを基に主題を生み出す活動を設定しました。生徒にとって身近で愛着がある地域の美術文化を題材とすることで、自分事として表現の活動に取り組むことができるようにしました。題材の導入で「あなたが知っている曳山の魅力を伝えよう」という課題を設定することで、「曳山の迫力を表したい」、「少し下から見たときの角度がかっこいい」などと、自分事として主題を生み出そうとしている様子を見ることができました。</p> <div style="border: 1px solid red; border-radius: 5px; padding: 2px; text-align: right; margin-top: 5px;">Q4 題材を考えたときのポイント②生徒の「やってみたい!」を引き出す</div> <p>○主題を基に構想を練る。</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">2. 発想や構想を支える1人1台端末の活用</p> </div> <p>作成した下絵の素案を1人1台端末で撮影し、構図を検討することができるようにしました（資料1）。既習の構図の学習を踏まえ、主役の位置を変えたり、部分を拡大したり、反転させたりと、様々なパターンの構図を試しながら、自分の構想に沿った構図を容易に検討することができるようにしました。検討した構図を基に、マジックペンや筆ペンなどで線を修正して意図に応じた線の表現を行ったり、画面上の白黒の色面のバランスを考えたりするなどしながら、よりよい構想を練ることができるようになりました。</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <p>資料1 下絵を撮影し、構図を検討している様子</p> </div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 5px; padding: 2px; text-align: center; margin-top: 5px;">Q4 表現の活動における ICT 活用のポイントは？（coming soon）</div> <div style="border: 1px solid red; border-radius: 5px; padding: 2px; text-align: center; margin-top: 5px;">Q3 【共通事項】の指導のポイント①～⑦：「形や色彩などが感情にもたらす効果」「構成の美しさについて」、「余白や空間の効果」、「造形的な特徴」などを基に全体のイメージを捉えることについて</div>
9	<p>○主題に応じた色彩効果を考えながら配色計画を立てる。</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">2. 発想や構想を支える1人1台端末の活用</p> </div> <p>主題に応じた色をイメージしやすくするために、単色刷りが終了した段階で配色計画の時間を設定しました。単色刷り終了後の作品を1人1台端末で撮影し、保存したデータを取り込み、1人1台端末の画像編集機能を活用して着色しながら配色を検討することができるようにしました。画像編集機能を活用すると、多くの色に触れることができるため、自分のイメージに沿った色を容易に表現することができました。また、何度でも配色のやり直しをすることができるため、複数の配色パターンを作成して配色を検討し、生徒が自分のイメージしたものに近づけようとする様子を見ることができました。このように1人1台端末を効果的に活用することによって、よりよい表現の追求につながることができました。</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 5px; padding: 2px; text-align: center; margin-top: 5px;">Q4 表現の活動における ICT 活用のポイントは？（coming soon）</div> <div style="border: 1px solid red; border-radius: 5px; padding: 2px; text-align: center; margin-top: 5px;">Q3 【共通事項】の指導のポイント①～⑦：「形や色彩などが感情にもたらす効果」「構成の美しさについて」、「余白や空間の効果」、「造形的な特徴」などを基に全体のイメージを捉えることについて</div>

2 生徒が創造的に表す技能を働かせて表現するための指導の工夫

時	○学習のねらい □指導の工夫 ▨授業改善の具体的な内容
3	○彫刻刀の生かし方を身に付け、意図に応じて工夫して表す。
4	3. 創造的に表す技能を習得するための学習活動の設定
5	
6	<p>第3時に、彫刻刀の基本的な使い方を確認し、木版の裏側で彫り方を試す活動を行いました。</p> <p>まず、板書や大型提示装置を活用して彫刻刀の基本的な使い方を確認しました。本題材で創造的に表す技能を働かせて表現するためには、彫刻刀の基本的な使い方の習得が必要であることから、机間指導を行い、彫刻刀の基本的な使い方の習得に課題がある生徒には個別指導を行いました。本時は板書や教科書に掲載されている彫刻刀の使い方の資料を必要ときに確認するように声掛けをしました。ほかにも彫刻刀の使い方の動画をクラウド上に保存しておき、1人1台端末で確認できるようにすることも有効です。彫刻刀の基本的な使い方を踏まえて、彫刻刀の種類による彫り跡の違いを確認しながら彫り方を試すことで、生徒が自分の意図に応じて彫刻刀を使い分けることができるようにしました（資料2）。制作の期間は用具コーナーを設置し、生徒が必要な用具を使いたいときに使うことができるようにしました（資料3）。彫刻刀の片付けや交換のルールを決めて示したり（資料4）、授業の後に用具を常に点検したりすることで、安全に制作できる環境を整えました。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="248 871 810 1182"> <p>資料2 彫刻刀の使い分けを図示した板書の一部</p> </div> <div data-bbox="844 871 1262 1182"> <p>資料3 用具コーナー</p> </div> <div data-bbox="1289 871 1522 1182"> <p>資料4 貸出用の彫刻刀</p> </div> </div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Q1 生徒が創意工夫して表現できるようにするための指導のポイントは？ (coming soon)</p> </div>
10	○単色刷りや裏手彩色の生かし方を身に付け、意図に応じて工夫して表す。
11	
12	4. 友人との交流で学んだことを自分の表現に生かす活動の設定
	<p>単色刷りのよさを生かしつつ、自分の意図に応じて直接的な表現ができるようにするために、裏手彩色で着色することにしました。裏手彩色のポイントとして①絵の具と水の量、②筆の使い方、③グラデーションの表現の3つを提示し、生徒が自分の表現意図に応じて活用しながら制作を進めることができるようにしました。</p> <p>制作途中にグループで鑑賞を行い、自分の作品を振り返るとともに、友人の作品のよさや美しさを感じ取り、自分の表現に活用できるようにしました（資料5）。その際、裏手彩色のポイント①～③に応じて友人の作品の右側の余白にシールを貼ることで、どの裏手彩色のポイントに基づいて表現を工夫することができるか、鑑賞の活動に取り組む際に着目した裏手彩色のポイントを短時間で可視化できるようにしました。シールの色は、裏手彩色のポイントに従って事前に指定していました（資料6）。また、鑑賞の活動に取り組むことに難しさを感じている生徒には、机間指導の際に教師がシールを貼り、どの裏手彩色のポイントに基づいて表現しているかを示すことで、活動への見通しと意欲を高めることができました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="1150 1462 1517 1731"> <p>資料5 制作途中の鑑賞の様子</p> </div> <div data-bbox="1150 1805 1517 2130" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>裏手彩色のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ●赤 絵の具や水の量を意識しながら制作できている。 ●青 筆の使い方を意識しながら制作できている。 ●緑 グラデーションの表現を取り入れながら制作できている。 </div> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> <p>資料6 指定したシールの色</p> </div>

10
11
12

資料7-1、2の作品は、鑑賞する前には、作品に赤色のシールが多く貼られており、絵の具と水の量を意識しながら表現することができていました。

鑑賞したあとでは、配色計画と比較しながら、背景にグラデーションの表現をしようと水の量や筆の使い方を調整して制作を進め、自分の表現意図に基づいて表現方法を工夫している様子を見ることができました。



資料7-1 鑑賞後の制作の様子



資料7-2 完成作品の様子

Q1 生徒が創意工夫して表現できるようにするための指導のポイントは？ (coming soon)

Q6 話し合い活動のポイントは？

3 表現と鑑賞を関連させて学びを深めるための工夫

時	○学習のねらい □ 指導の工夫 ■ 授業改善の具体的な内容
13	<p>○生徒作品を相互に鑑賞し、作品や自分の活動した体験から造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。</p> <p>5. 作品の見方や感じ方を広げる鑑賞の活動の設定</p> <p>制作が終了したあとの鑑賞の活動について、①自分の作品の振り返り、②友人の作品の鑑賞、③制作を踏まえ、第1時とは異なる木版画と裏手彩色の技法を用いて制作した作家の作品の鑑賞、の3段階に分けて設定しました。</p> <p>①では、下絵、彫り、摺り、彩色の各工程において自分の作品の工夫した点を振り返りができるようにしました。造形的な視点を基に自分の作品のよさや美しさに着目したり、表現の工夫に着目して反省点を振り返ったりしている様子を見ることができました。</p> <p>②では、グループで友人の作品を鑑賞する活動を設定しました。下絵についてはピンク、彫りについては水色、刷りについては黄色、彩色については緑の付箋を準備し、鑑賞して気付いたり感じたりしたことを記入し、友人の作品に貼るようにしました。造形的な視点を基に、友人の作品のよさや美しさ、表現の工夫について鑑賞していました。また、記入した内容をグループや全体で共有することで、作品に対する見方や感じ方を広げることができるようになりました。</p> <p>①と②の学習活動を踏まえ、③では、棟方志功『門世の柵』の鑑賞を行いました。ワークシートの記述から、彫り方の美しさ、彫る部分と彫らない部分との白黒のバランス感覚のよさ、裏手彩色による色彩の鮮やかさなど造形的な視点を基に表現の工夫に着目して鑑賞していることが分かります（資料8）。このことから、表現の活動における自分自身の学びを踏まえつつ、作品の表現の工夫について見方や感じ方を広げている様子を見取ることができました。</p> <div data-bbox="920 1462 1501 1821" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>彫りの角の部分の文字が細かく彫られていて、色も真ん中は白、周りには赤、緑、黄青などの鮮やかな色がたくさん使われていて、彫る部分と彫らない部分でしっかりメリハリをつけているのがすごいと思いました。</p> </div> <p>資料8 鑑賞の記述の一部（※下線部は造形的な視点を基に表現の工夫について述べている箇所）</p> <p>Q2 表現と鑑賞の活動の関連を図るときのポイントは？ (coming soon)</p> <p>Q3 [共通事項]の指導のポイント①～⑦：「形や色彩などが感情にもたらす効果」「構成の美しさについて」、「余白や空間の効果」「造形的な特徴」などを基に全体のイメージを捉えることについて</p>



もっと知りたい！～学習の過程における表現の活動の見取り～

生徒の表現の活動を見取った場面について紹介します。

完成作品の完成度だけでなく、ワークシートや配色計画、授業中の観察など様々な評価材料を基に、生徒の学習の過程を見取っていくことが大切です。また、生徒の意図を把握する際には、生徒が自分自身の活動を振り返った資料を活用することも効果的です。

○生徒Aの学習の様子（資料9-1～5）



資料9-1 版木



資料9-2 配色計画



資料9-3 裏手彩色の初期



資料9-4 鑑賞後の制作の様子



資料9-5 作品

生徒Aの作品と版木の彫りの状態、「線を太くした理由は顔を目立たせたかったから」というワークシートの振り返りの記述から、曳山の顔を強調するために線の太さを意識しながら彫り進めていたことがうかがえます。単色刷りのデータからは、夜の闇を背景の黒で表現し、彩度が高い色を配色することで、曳山を強調する効果を出すとともに、生徒Aが宵山の明かりを表現したいという意図に応じて配色を検討したことがうかがえます。

制作が進むにつれて、単色刷りのデータを基に、曳山の水の量や筆の使い方を調整しながら宵山の明かりを表現している様子を見取ることができました。振り返りシートでは「宵山の明かりを表すのをがんばった」という記述があったことから、宵山の明かりを表現するために、自分の表現意図に合う方法を試行錯誤した様子がうかがえます。

これらのことから、身に付けた裏手彩色の生かし方を基に、表現方法について試行錯誤を重ね、意図に応じて創意工夫しながらよりよく表していると見取り、評価へつなげました。

○生徒Bの学習の様子（資料10-1、2）

生徒Bの作品と版木の彫りの状態、「（青獅子の特徴である）顔や髪の毛を細かく、目は大きく彫った」というワークシートの振り返りの記述から、意図に応じて線の違いを意識しながら彫り進めていたことがうかがえます。生徒Bは構想の段階から、曳山の特徴や迫力を表現するための構図や線の太さを意識して制作していたことがうかがえます。配色計画の単色刷りのデータでは、補色の関係で配色をしたり、曳山と背景とで色彩の彩度や濃淡の差をつけたりすることで、曳山を強調する効果が生まれていることがうかがえます。

制作が進むにつれて、単色刷りのデータを基に、水の量を調節して絵の具の濃度を変えたり、曳山を強調するために筆の使い方を工夫したりして表現している様子を見取ることができました。

これらのことから、配色計画を基に、絵の具と水の量の調節や、筆づかいを工夫した色の重ね方などを意識して、意図に応じた彩色ができていると見取り、評価へつなげました。



資料10-1 配色計画



資料10-2 作品

○振り返りについて（資料11-1、2）

毎時の終末は、その日の学習で学んだことや次回頑張りたいことをワークシートに記述することで、自分の学習を振り返り、次時の学習につなげることができるようにしました。その際、造形的な視点を基に自分の活動を振り返ることで、学んだことを明確にすることができました。

制作内容：彫削	満足度	振り返り		
考えたこと	A	B	C	D
彫削の理由（考えたこと）				
彫削の理由（考えたこと）				
彫削の理由（考えたこと）				
彫削の理由（考えたこと）				
彫削の理由（考えたこと）				
彫削の理由（考えたこと）				
彫削の理由（考えたこと）				
彫削の理由（考えたこと）				
彫削の理由（考えたこと）				
彫削の理由（考えたこと）				

資料11-1 生徒Cの振り返り（部分）

制作内容：彩色	満足度	振り返り		
考えたこと	A	B	C	D
彩色の理由（考えたこと）				
彩色の理由（考えたこと）				
彩色の理由（考えたこと）				
彩色の理由（考えたこと）				
彩色の理由（考えたこと）				
彩色の理由（考えたこと）				
彩色の理由（考えたこと）				
彩色の理由（考えたこと）				
彩色の理由（考えたこと）				
彩色の理由（考えたこと）				

資料11-2 生徒Dの振り返り（部分）

※下線部は、自分の意図に応じて表すためにどのような工夫をしたかについて、造形的な視点を基に学習を振り返っている箇所